

# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 19 No.4, 2012



第5回ジオパーク国際ユネスコ会議の巡検風景。島原半島世界ジオパークのジオサイト「龍石海岸」。基盤の口之津層群とこれを覆う雲仙火山活動開始期の土石流堆積物が観察できる。(2012.5.14 森脇 広撮影)

---

Vol. 19 No. 4

August 1, 2012

---

2012年大会案内・・・・・・・・・・	2	ジオパーク国際ユネスコ会議・・・・・・・・	14
大会プログラム・・・・・・・・・・	6	教員公募・・・・・・・・・・	15
学会賞等受賞者決定・・・・・・・・	13	評議員会議事録・・・・・・・・	15
ルミネッセンス・ESR会議・・・・	13	会員消息・・・・・・・・・・	16
豊橋市自然史博物館企画展・・・・	14		

---

◆日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月21日(火)、立正大学熊谷キャンパスにて2012年度総会が開催されます。会員各位のご出席をお願いいたします。やむを得ず欠席される場合には、委任状(とじ込みはがきまたはファックス、メール)を必ずご提出下さい。8月16日(木)必着でお願いします。

●とじ込みはがきでの委任状提出の場合は、お多数ですが切手を貼り、締切日までに到着するように早めに投函下さい。

●ファックスでの委任状提出の場合は、とじ込みはがきか下記の様式に必要事項を記入し、下記のFAX番号宛にお願いします。

FAX番号: 03-5291-2176 日本第四紀学会事務局宛

●メールでの委任状提出の場合は、宛名を「2012年度総会議長」としたうえで、代理人氏名(「議長」でも可)、氏名、所属を明記し、daiyonki(at)shunkosha.com(学会事務局)へ送信して下さい。メールの題名は「第四紀学会メール委任状(2012総会)」として下さい。

総 会 委 任 状

2012年 月 日

日本第四紀学会 2012年度総会議長殿

私は議長(または 氏)を代理人と定め、日本第四紀学会 2012年度総会におけるいっさいの議決権を委任します。

氏名( ) (署名)  
所属( )

◆日本第四紀学会 2012年大会案内(第4報)

日本第四紀学会2012年大会が以下の予定で開催されます。多数の皆さんのご参加をお願いいたします。本大会は一般セッションとテーマセッションの2会場で行って講演発表を行います。日本一暑い熊谷で熱い討論をしましょう。

1. 大会名称

「熱い討論 第四紀学会 2012年大会 in 立正大熊谷(立正大学開校140周年記念)」

2. 日時・開催場所

2012年8月20日(月)～8月22日(水)

立正大学熊谷キャンパス(埼玉県熊谷市万吉1700) アカデミックキューブ・スポーツキューブ

3. 関連行事も含めた大会日程

8月19日(日) 特別講演会: 埼玉県立川の博物館(埼玉県大里郡寄居町小園39)

13:30～15:00 特別講演「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」(4ページを参照)

8月20日(月) 一般セッション・テーマセッション・評議員会

9:00～10:30 テーマセッション「c. 関東内陸部の第四紀地形変化とテフロクロロジー」(第2会場)

10:25～12:10 一般セッション(第1会場)、テーマセッション「a. テフラの生成と拡散・災害」(第2会場、10:40より)

12:10～13:00 昼食、休憩、幹事会

13:00～14:00 ポスターセッションコアタイム(ポスター会場)

14:00～16:00 一般セッション(第1会場)、テーマセッション「e. テフラの年代測定の新展開(1)」(第2会場)

16:00～16:15 休憩

16:15～18:00 一般セッション(第1会場)、テーマセッション「e. テフラの年代測定の新展開(2)」(第2会場)

18:00～19:30 評議員会

8月21日(火) 一般セッション・テーマセッション・総会・表彰状授与式・懇親会

- 9:00～11:30 一般セッション（第1会場）、テーマセッション「e. テフラの年代測定の新展開（3）」（第2会場）休憩を含む  
 11:30～13:00 総会（第1会場）・表彰状授与式  
 13:00～14:00 昼食、休憩  
 14:00～15:00 ポスターセッションコアタイム（ポスター会場）  
 15:00～17:30 テーマセッション「d. 考古学におけるテフラの多面性の利用」（第1会場）、テーマセッション「b. テフラの地質学」（第2会場）休憩を含む  
 18:00～20:00 懇親会、若手発表賞表彰式

#### 8月22日（水） 公開シンポジウム及び普及活動

- 9:30～14:30 公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」  
 10:00～17:00 普及活動

#### 8月23日（木） 巡検「荒川上・中流域の第四紀」

- 9:00 立正大学発、16:15 西武秩父駅解散または 18:00 熊谷駅解散

#### 4. 共催学会等

日本火山学会、日本鉱物科学会、日本地形学連合、日本地質学会、埼玉県立川の博物館、埼玉県立自然の博物館

#### 5. 後援

立正大学（開校 140 周年記念事業）

#### 6. 会場案内

○立正大学熊谷キャンパスへのアクセス

熊谷駅（JR 高崎線、新幹線、秩父鉄道）南口より国際十王バス立正大学行、立正大学下車（10分 270円）。または森林公園駅（東武東上線）北口より国際十王バス立正大学行または熊谷駅行、立正大学下車（12分 340円）。バスの時刻表など詳細については立正大学ホームページからご覧下さい（[http://www.ris.ac.jp/guidance/cam\\_guide/index.html](http://www.ris.ac.jp/guidance/cam_guide/index.html)）。自家用車で来場される方は、キャンパス北側の学生駐車場をご利用下さい。

○宿泊：熊谷駅周辺にホテルがあります。宿泊の予約は各自でお願いします。

○会期中の昼食：大学の食堂が営業しています。

○会期中は荷物預かり所を設置しますのでご利用下さい。

○20日夜に集会などで教室を使用したい場合は <jaqua2012(at)ris.ac.jp> までご連絡下さい。

○会期中は立正大学博物館が開館しており、ご自由に見学ができます。

アクセスマップ



キャンパスマップ



#### 7. 口頭発表要領

○一般発表は、発表 12 分、質疑応答 3 分です。発表時間を厳守して下さい。

○会場には Windows（OS は Windows 7）パソコンに接続した液晶プロジェクターを用意します。

Adobe Reader 9、Microsoft PowerPoint 2010 を用いた発表が可能です。Mac で作成の方は、あらかじめ

## 大会案内

Windows パソコンで動作確認をお願いします。

- ファイル名に講演番号をつけたデータファイルを USB メモリー等(ウイルスの感染のないもの)に入れ、当該セッション前の休憩時間までに会場の担当者までお持ち下さい。
- 上記以外のソフト、またはご自分のパソコンの使用を希望される場合には、ご自分のパソコンを持参して、接続して下さい。
- Mac 使用の方は、コネクタを持参下さい。
- OHP はありません。

### 8. ポスターセッションの発表要領

- ポスターは大会期間中 8 月 20 日 9:00 ~ 8 月 21 日 17:00 まで掲示できます。会場はスポーツキューブ 1 階軽運動室です。
- ポスターセッションコアタイム：8 月 20 日 13:00 ~ 14:00、8 月 21 日 14:00 ~ 15:00 を説明時間帯に設定しています。
- ポスターセッションのショート・サマリー発表はありません。
- ポスターボードの大きさは幅 110cm × 縦 150cm (脚の高さ 20cm) で、A0 版、B0 版が貼れる大きさです。画鋏は会場で用意します。
- ポスターには発表番号・発表題名・発表者名をタイトルとして明記して下さい。発表番号はプログラムを参照して下さい。
- ポスターは指定されたボード (発表番号が示されています) に掲示下さい。
- ポスター会場にはコンピューターなどを使用するための電源はありません。

### 9. 会場受付・懇親会申し込み等

- 受付は、アカデミックキューブ 1 階のエントランスホールで、8 月 20 日の 8:00 から開始します。
- 大会参加費として、会員・非会員を問わず 2,000 円を申し受けます。当日会場受付でお支払い下さい。ただし、70 歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。
- 講演要旨集は、会場で直接販売します (予価 2,000 円)。
- 懇親会  
日時：8 月 21 日 (火) 18:00 ~ 20:00  
会場：立正大学熊谷キャンパス ステラ食堂  
当日参加費：5,000 円、学生は 3,000 円 (予定) (会場受付でお支払いください)  
事前申込み参加費：4,500 円、学生は 2,500 円  
事前申込み：8 月 4 日 (土) までに <jaqua2012(at)ris.ac.jp> あてに、件名に「懇親会」、本文に氏名・所属を記したメールをお送り下さい。
- 8 月 22 日のシンポジウムは一般公開とし、会員・非会員を問わず参加費は無料です。

### 10. 特別講演会「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」

趣旨：7 月 14 日 (土) ~ 9 月 2 日 (日) まで埼玉県立川の博物館で開催されている平成 24 年度特別展「今だって氷河時代ー埼玉からさぐる気候変動ー」の関連講演会として開かれます。

主催：埼玉県立川の博物館、共催：日本第四紀学会

日時：8 月 19 日 (日) 13:30 ~ 15:00

場所：埼玉県立川の博物館 (埼玉県大里郡寄居町小園 39)

講師：福井幸太郎 (立山カルデラ砂防博物館)

講演題目：「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」

講演内容：今年、立山連峰にある 3 つの雪渓 (三ノ窓雪渓、小窓雪渓、御前沢雪渓) が、立山カルデラ砂防博物館の調査により、日本で初めて現存する「氷河」であると学術的に認められました。日本にも氷河が存在するという事は、日本が今まさに「氷河時代」である証拠ともいえます。立山連峰に複数存在する雪渓のうち、これらの雪渓が、改めて「氷河」と認められたのはどうしてでしょうか。なぜ立山連峰には氷河があるのか、また氷河と認定されるために必要な条件とはなにか、そしてその条件を満たすためにどのような観測をおこなったのか、ご紹介いただきます。

事前申し込みをしていただくと入館料が無料になります。下記に問い合わせして下さい。

問い合わせ先：埼玉県立川の博物館 (担当杉内) (<http://www.river-museum.jp>)

TEL : 048-581-7333 FAX : 048-581-7332

E-mail : [web-master\(at\)river-museum.jp](mailto:web-master(at)river-museum.jp)

### 11. 公開シンポジウムおよび普及活動

趣旨：シンポジウムは学会員及び市民を対象として南極氷床コアから得られた最新の学術成果を紹介し、普及活動は児童・生徒と保護者を対象として第四紀や南極一般を紹介する予定です。これらは、研究者による研究成果を社会に還元するための、学会によるアウトリーチ活動の一環として行われます。

シンポジウムの講演は、国立極地研究所の全面的な協力のもとに行います。普及活動は児童・生徒と保護者を対象としているために、展示や質問コーナー、短い講演と体験活動を組み合わせて行います。体験活動は、南極の氷に触れることのほかに、南極の昭和基地との中継を行い、児童・生徒に南極を身近にとらえてもらうことを目的とします。

日時：8月22日（水）9:30～14:30（公開シンポジウム）、10:00～17:00（普及活動）

場所：立正大学熊谷キャンパス A101 教室ほか

共催：埼玉県立川の博物館

○公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」（講演） 9:30～14:30

世話人：福岡孝昭（立正大）

○普及活動 10:00～17:00

世話人：植木岳雪（産総研）

10:00～17:00（その1）園山俊二まんが原画展

11:00～15:00（その2）質問コーナー「博士に聞いてみよう」

15:00～16:30（その3）南極ってどんなところ（講演、体験活動、南極との中継）

これらの普及活動は、文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「彩の国さいたまで自然の歴史を発見しよう」の補助を受けています。

## 12. 巡検

○案内者 田村俊和、井上素子、楡井 尊、鈴木毅彦

○8月23日（木）日帰り 貸切バスにより移動

9:00 立正大学熊谷キャンパス正門 発

埼玉県立川の博物館（荒川上・中流域の地形概観）、用土（櫛挽断層変位地形）、長瀨（河成段丘、「岩畳」）、秩父盆地の中・低位段丘地形、高位段丘堆積物と多摩ローム層相当層（この露頭は地権者の了解を得て、今回特別に観察できます。少量のサンプリングなら可能です）など

16:15 西武秩父駅 解散（16:25 発の特急（池袋着 17:47）に乗車可能）

17:30～18:00 頃 熊谷駅 解散

1/2.5万地形図 三ヶ尻、寄居、鬼石、皆野、秩父

○参加費 昼食代、旅行傷害保険料等を含み、4,000円（大会受付で支払ってください）

○定員 40人（先着順）

○参加申込 下記の全項目を記入し、e-mailで指定メールアドレスに送信（または郵送）

○申込締切 8月4日（土）

○希望者は、前日（22日）学内の宿泊施設（ユニデンス、1泊2,500円）に宿泊できます。

○巡検申込に必要な項目

氏名

所属

連絡先（e-mail address and/or 電話番号）

生年月日（保険申し込みに限って使用します）

22日のユニデンス宿泊希望の有無

○送付先

e-mailの場合 jaqua2012(at)ris.ac.jp

郵送の場合 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地球環境科学部 田村俊和(表に巡検申込と明記)

## 13. 大会実行委員会および連絡先

実行委員会委員：福岡孝昭（実行委員長、立正大学）・田村俊和（立正大）・北沢俊幸（立正大）・青木かおり（立正大）・早田 勉（火山灰考古学研）・井上素子（埼玉県立自然の博物館）・楡井 尊（埼玉県立自然の博物館）・杉内由佳（埼玉県立川の博物館）・瀬戸真之（埼玉大）

連絡先：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学地球環境科学部 福岡孝昭研究室 2012年大会実行委員会事務局

大会用 E-mail：jaqua2012(at)ris.ac.jp

TEL/FAX：048-539-1640

お問い合わせは出来るだけ大会用 E-mail でお願ひします。

## 14. プログラム詳細

●第1日 2012年8月20日（月）

口頭発表第1会場：アカデミックキューブ A205 教室

口頭発表第2会場：アカデミックキューブ A201 教室

ポスター発表会場：スポーツキューブ 1階軽運動室

評議員会会場：アカデミックキューブ A309 教室

## 口頭発表（連名の場合は筆頭者が発表、\*印は若手発表賞エントリー）

## ○口頭発表第1会場（一般セッション）

&lt;一般セッション&gt;

GO-01～03 座長：小林 淳（ダイヤコンサルタント）

GO-01 10:25-10:40 東海層群のフィッシュン・トラック年代と昆虫および花粉化石群集……………森 勇一（金城学院大）・齊藤 毅（名城大）・宇佐美 徹（愛知県立杏和高）

GO-02 10:40-10:55 加治丘陵の仏子層から得られた絶滅属の花粉化石……………楡井 尊（埼玉県立自然の博物館）

GO-03 10:55-11:10 関東平野中央部の深層ボーリングコアの古地磁気層序……………植木岳雪・納谷友規・水野清秀（産総研）

GO-04～06 座長：岡崎浩子（千葉県立中央博）

GO-04 11:10-11:25 関東平野における浅海成更新統の層序指標としての海生珪藻化石 *Lancineis rectilatus*……………納谷友規\*・植木岳雪（産総研）・本郷美佐緒（アルプス調査所）・水野清秀（産総研）

GO-05 11:25-11:40 インドネシア サンギラン地域における人類化石産出層最下部の古環境……………北場育子\*・兵頭政幸（神戸大）・松浦秀治・近藤 恵（お茶の水女子大）・竹下欣宏（信州大）・F. Aziz（インドネシア GSI）・熊井久雄（大阪市立大）

GO-06 11:40-11:55 恐山火山外輪山の年代と火山活動史—小目名沢石英安山岩の恐山火山の活動史上の位置づけに着目して—……………小林 淳（ダイヤコンサルタント）・水上啓治（リサイクル燃料貯蔵）

GO-07 座長：小林 淳（ダイヤコンサルタント）

GO-07 11:55-12:10 安達太良火山東麓に分布する伏拝岩屑なだれ堆積物と二本松丘陵の地形発達……………齊藤はるか・鈴木毅彦（首都大）

12:10-13:00 昼食、休憩、幹事会

13:00-14:00 ポスターセッションコアタイム（会場：スポーツキューブ 1 階軽運動室）

GO-08～09 座長：丹羽雄一（東京大）

GO-08 14:00-14:15 地層変形シミュレーションを用いた伊勢原断層の断層傾斜角および活動履歴の推定……………安藤広一\*・山崎晴雄（首都大）

GO-09 14:15-14:30 石川県邑知瀉断層帯におけるボーリングコアからみる花粉化石群集の変動……………竹本仁美\*（広島大）

GO-10～12 座長：藤木利之（福岡大）

GO-10 14:30-14:45 千葉県成田市印旛沼低地における酸素同位体ステージ 3 の植生変遷……………稲田 晃・西村祥子・会田信行・島村健二・志水里美・金子静子・金子陽子・齊藤ひさ

GO-11 14:45-15:00 安定窒素同位体比が示す最終氷期—間氷期におけるバイカル・フスグル湖内の窒素制限の変化……………奈良郁子・渡邊隆広・掛川 武・箕浦幸治（東北大）・今井章雄（国立環境研）・堀内一穂（弘前大）・Nathalie Fagel（University of Liege）・中村俊夫・河合崇欣（名古屋大）

GO-12 15:00-15:15 沖縄県石垣島の白保竿根田原洞穴遺跡の後期更新世～完新世の堆積物から新たに発見された 2 種類の小型哺乳類……………河村 愛\*（大阪市立大）・河村善也（愛知教育大）

GO-13～15 座長：北田奈緒子（地域地盤環境研）

GO-13 15:15-15:30 ボーリングデータベースに基づく東京低地の沖積層基底面のサーフェスマデル：埋没地形面の特徴と地形発達史……………木村克己（産総研）・花島裕樹（筑波大）・西山昭一（応用地質）・康 義英（産総研）

GO-14 15:30-15:45 沖積層のローカルネーム（とくに七号地層）について……………鴨井幸彦（興和）

GO-15 15:45-16:00 完新世中期の湖水位低下期と乾燥期に対応するカザフスタン、バルハシ湖とイリ川デルタ周辺の砂丘活動……………佐藤明夫\*（東京大）・近藤玲介（明治大）・須貝俊彦・清水 整（東京大）・遠藤邦彦（日本大）

16:00-16:15 休憩

GO-16～18 座長：近藤玲介（明治大）

GO-16 16:15-16:30 クック諸島ラロトンガ島カレカレ湿地の花粉分析……………藤木利之・奥野 充（福岡大）・河合 溪・森脇 広（鹿児島大）

GO-17 16:30-16:45 中米・エルサルバドル共和国、サン・フアン・デル・ゴソ半島の形成時期……………北村 繁（弘前学院大）

GO-18 16:45-17:00 北海道白老～勇払海岸平野における完新世後期のテフロクロノロジー……………鈴木 正章（道都大・日本大）・遠藤邦彦（日本大）・古川竜太（産総研）・鈴木 茂（日本大）

GO-19～21 座長：小玉芳敬（鳥取大）

GO-19 17:00-17:15 地中レーダによる安倍川網状州の研究（予報）……………岡崎浩子（千葉県立中央博）・郭 栄（土木研）・田村 亨（産総研）

GO-20 17:15-17:30 大阪平野西部恵美須遺跡における海浜堆積物と紀州街道の成立……………中条武司（大阪市立自然史博）・趙 哲済（大阪文化財研究所）

GO-21 17:30-17:45 マイワシ魚鱗記録と PDO index の長周期成分に見られる同調性……………加 三千宣・

佐川拓也 (愛媛大)・山本正伸 (北海道大)・杉本隆成 (東海大)・武岡英隆 (愛媛大)  
18:00-19:30 評議員会 (会場: アカデミックキューブ A309 教室)

### ○口頭発表第2会場 (テーマセッション)

< c. 関東内陸部の第四紀地形変化とテフロクロノロジー > 座長: 鈴木毅彦 (首都大)

- TcO-01 09:00-09:15 関東内陸部の第四紀地形変化とテフロクロノロジー: テーマセッション趣旨説明とレビュー…………鈴木毅彦 (首都大)
- TcO-02 09:15-09:30 浅間火山・黒斑山の山体崩壊に由来する大規模土砂移動ー関東平野の地形発達に及ぼした影響と自然災害ポテンシャル…………吉田英嗣 (明治大)
- TcO-03 09:30-09:45 荒川・妻沼低地と中川・渡良瀬低地における MIS3 以降の地形発達の比較…………石原武志\*・須貝俊彦 (東京大)・八戸昭一 (埼玉県環境科学国際センター)
- TcO-04 09:45-10:00 関東平野の更新統編年に有効な含カミングトン閃石テフラ…………中里裕臣 (農研機構)・中澤 努 (産総研)
- TcO-05 10:00-10:15 関東平野中央部「大宮」「野田」地域に分布する中ー上部更新統下総層群のテフラ層序と堆積相累重様式…………中澤 努・坂田健太郎 (産総研)・中里裕臣 (農工研)
- TcO-06 10:15-10:30 山手台地下の伏在飯田橋推定第四紀断層の活動性…………豊蔵 勇 (ジオ・とよくら技術士事務所)・青砥澄夫 (川崎地質)・川田明夫 (大和探査)・須藤 宏 (応用地質)・福井謙三 (基礎地盤コンサルタンツ)・松崎達二 (サンコーコンサルタント)・渡辺平太郎 (アサノ大成基礎エンジニアリング)・島崎邦彦 (東京大)・山崎晴雄 (首都大)

10:30-10:40 休憩

< a. テフラの生成と拡散・災害 > 座長: 大石雅之 (産総研)

- TaO-01 10:40-10:55 ブルカノ式噴火によるテフラの物質科学的特徴とその噴火プロセス…………大石雅之\*・下司信夫・Nicolas VINET・篠原宏志 (産総研)
- TaO-02 10:55-11:10 火山噴煙の3次元シミュレーション: 降灰予測に向けて (招待講演) ……鈴木英雄治郎・小屋口剛博 (東京大・地震研)
- TaO-03 11:10-11:25 降下火山灰のシミュレーション技術と火山灰地質学への応用…………萬年一剛 (神奈川県温地研)
- TaO-04 11:25-11:40 地質記録に保存されていない爆発的噴火ほどの程度あるのか? 第四紀大規模噴火データベースの分析 (招待講演) ……清杉孝司 (東京大・地震研)・C.B.Connor (Univ. of South Florida)・R.S.J.Sparks・H.S.Croweller (Univ. of Bristol)・L.Siebert (Smithsonian Institution)・宝田晋治 (産総研)
- TaO-05 11:40-11:55 新燃岳の活動史について (招待講演) ……田島靖久 (日本工営)・林 信太郎 (秋田大)・安田 敦 (東京大)・伊藤英之 (岩手県立大)
- TaO-06 11:55-12:10 箱根火山まで飛来した富士山貞観噴火の褐色火山ガラス…………土屋美穂\* (立正大・院)・萬年一剛 (神奈川県温地研)・小林 淳 (ダイヤコンサルタント)・福岡孝昭 (立正大)

12:10-13:00 昼食、休憩、幹事会

13:00-14:00 ポスターセッションコアタイム (会場: スポーツキューブ 1 階軽運動室)

< e. テフラの年代測定の新展開 (1) > 座長: 下岡順直 (京都大)

- TeO-01 14:00-14:15 火山ガラスのフィッシュトラック年代測定法 (招待講演) ……長谷部徳子・伊藤健太郎 (金沢大)
- TeO-02 14:15-14:30 石英単粒子によるテフラの RTL 年代測定…………鷹澤好博・三浦知督 (北海道教育大・函館校)
- TeO-03 14:30-14:45 非石英粒子を用いた火山噴出物のルミネッセンス年代測定…………高田将志 (奈良女子大)
- TeO-04 14:45-15:00 熱ルミネッセンス年代による九重火山中西部の噴火史の再検討…………奥野 充・鮎沢 潤 (福岡大・噴火情報研)・今里 博・大淵真吾・葺本信太郎・兼田大道 (福岡大)・高島 勲 (秋田大)
- TeO-05 15:00-15:15 小規模非溶結火砕流堆積物とその2次堆積物の ESR 年代測定…………水垣桂子 (産総研)
- TeO-06 15:15-15:30 テフラ中の石英を用いた ESR 年代測定の不純物中心別評価…………浅越光矢\*・豊田 新 (岡山理科大)
- TeO-07 15:30-15:45 ESR 熱年代学に基づくコア試料の熱史の解明…………谷 篤史 (大阪大)
- TeO-08 15:45-16:00 レーザーアブレーション ICP 質量分析法による 1Ma ジルコンの U-Pb 年代測定…………岩野英樹 (京都フィッシュ・トラック)・坂田周平 (京都大)・檀原 徹 (京都フィッシュ・トラック)・平田岳史 (京都大)

16:00-16:15 休憩

< e. テフラの年代測定の新展開 (2) > 座長: 奥野 充 (福岡大)

- TeO-09 16:15-16:30 K-Ar analysis of Latest Pleistocene volcanic rocks with Ar isotope mass fraction-

## 大会プログラム

- ation (招待講演) ……Sunyoung RYU・Hiroshi KITAGAWA & Eizo NAKAMURA (Okayama Univ.)・Tetsumaru ITAYA (Okayama Univ. of Science) & Koichiro WATANABE (Kyushu Univ.)
- TeO-10 16:30-16:45 宇宙線生成核種を用いた表層プロセス年代決定法—浸食速度・露出年代・埋没年代等の決定法— ……横山祐典・中村淳路 (東京大)・城谷和代 (産総研)・山根雅子・宮入陽介・松崎浩之 (東京大)
- TeO-11 16:45-17:00 210Pb 法による水圏底質の堆積速度と堆積年代の推定 (招待講演) ……山崎秀夫 (近畿大)
- TeO-12 17:00-17:15 モニタリングデータとコア堆積物を用いた環境動態解析—西日本沿岸域における近過去の珪藻群集変化— (招待講演) ……廣瀬孝太郎\* (福島大)・安原盛明 (香港大)・吉岡 薫・佐古恵美・入月俊明・瀬戸浩二 (島根大)・山崎秀夫 (近畿大)
- TeO-13 17:15-17:30 湖沼年縞によるイベント地層の年代決定法 ……山田和芳 (早稲田大)・齋藤めぐみ (国立科学博)
- TeO-14 17:30-17:45 縞状珪藻質泥岩の高精度年代決定法への応用と課題 ……齋藤めぐみ (国立科学博)・山田和芳 (早稲田大)
- TeO-15 17:45-18:00 火山活動履歴と樹木年輪 ……星野安治 (奈良文化財研)・大山幹成 (東北大)・米延仁志 (鳴門教育大)
- 18:00-19:30 評議員会 (会場:アカデミックキューブ A309 教室)

### ●第2日 2012年8月21日 (火)

口頭発表第1会場、総会、表彰状授与式会場:アカデミックキューブ A205 教室

口頭発表第2会場:アカデミックキューブ A201 教室

ポスター発表会場:スポーツキューブ 1階軽運動室

#### 口頭発表

##### ○口頭発表第1会場 (一般セッション、テーマセッション)

<一般セッション>

GO-22 ~ 24 座長:小岩直人 (弘前大)

GO-22 09:00-09:15 静岡県磐田市の太田川低地で見られる歴史津波堆積物 ……藤原 治 (産総研)・青島 晃 (磐田南高)・佐藤善輝 (九州大・院)・北村晃寿 (静岡大)・小野映介 (新潟大)・谷川晃一郎 (産総研)

GO-23 09:15-09:30 鎌倉市由比ガ浜で見出された歴史津波堆積物 (1) ……松島義章 (神奈川県立生命の星・地球博)・萬年一剛 (神奈川県温地研)・五島朋子 (神奈川県温地研ボランティア)・千葉 崇 (筑波大)・田中源吾 (群馬県立自然史博)・宮田 眞・滝沢晶子 (博通)

GO-24 09:30-09:45 鎌倉市由比ガ浜で見出された歴史津波堆積物 (2) ……萬年一剛 (神奈川県温地研)・五島朋子 (神奈川県温地研ボランティア)・松島義章 (神奈川県立生命の星・地球博)・千葉 崇 (筑波大)・田中源吾 (群馬県立自然史博)・宮田 眞・滝沢晶子 (博通)

GO-25 ~ 27 座長:谷川晃一郎 (産総研)

GO-25 09:45-10:00 年縞計測から推定された巨大津波の発生年代:釧路市春採湖コアに認められる17世紀巨大津波堆積物の研究例 ……石川 智\* (九州大・学振DC)・鹿島 薫 (九州大)・七山 太 (産総研)

10:00-10:15 休憩

GO-26 10:15-10:30 上北平野沿岸部の開析谷における東北地方太平洋沖地震時の津波の挙動と津波堆積物 ……小岩直人・片岡俊一 (弘前大)・葛西未央・磯野拳寛 (弘前大・院)

GO-27 10:30-10:45 東日本大震災による南三陸市管の浜漁港魚竜館・クダノハマ魚竜化石現地保存展示、館崎漁港ウタツ魚竜化石産地・ウタツ魚竜化石現地保存展示津波災害調査及び魚竜館再建モデルについて ……佐藤喜男 (チュラロンコン大)

GO-28 ~ 30 座長:藤原 治 (産総研)

GO-28 10:45-11:00 地域環境へのライフサイクル思考の導入—銚子ジオパーク構想を例として— ……安藤生大 (千葉科学大)

GO-29 11:00-11:15 樹木年輪中の酸素同位体比を用いたマウンダー極小期の東アジア地域の気候変動復元と太陽活動 ……坂下 渉\*・横山祐典 (東京大・大気海洋研)・宮原ひろ子 (東京大・宇宙線研)・阿瀬貴博 (東工大)・米延仁志 (鳴門教育大)・大山幹成・星野安治 (東北大)・中塚 武 (名古屋大)

GO-30 11:15-11:30 西日本における3000年の環境変化、その1—弥生人が日本人となつてからの環境変化— ……川幡穂高・松岡めぐみ・戸上亜美 (東京大)・原田尚美・木元克典 (JAMSTEC)・横山祐典 (東京大)・田中裕一郎 (産総研)・加 三千宣 (愛媛大)

11:30-12:20 総会 (会場:アカデミックキューブ A205 教室)

12:20-12:30 休憩

12:30-13:00 表彰状授与式 (会場:アカデミックキューブ A205 教室)



13:00-14:00 昼食、休憩

14:00-15:00 ポスターセッションコアタイム (会場：スポーツキューブ 1 階軽運動室)

< d. 考古学におけるテフラの多面性の利用 (1) > 座長：栞畑光博 (都城市教育委員会)

TdO-01 15:00-15:10 考古学研究におけるテフラの多面性の利用のために一火山灰考古学の基盤整備  
……早田 勉 (火山灰考古学研究所)

TdO-02 15:10-15:30 南九州における縄文時代の主要テフラと考古学への応用……栞畑光博 (都城市教育委員会)

TdO-03 15:30-15:50 縄文時代の富士山の火山活動と遺跡にみる人々の暮らし (招待講演) ……篠原武 (富士吉田市歴史民俗博物館)

TdO-04 15:50-16:10 平安時代の十和田火山および白頭火山噴火と東北地方北部の人々の動向 (招待講演) ……丸山浩治 (岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)

TdO-05 16:10-16:30 榛名火山起源 Hr-FA・Hr-FP およびそれらに起因する火山泥流の堆積時間と季節性に関する考古学的検討 (招待講演) ……坂口 一 (群馬県埋蔵文化財調査事業団)

16:30-16:40 休憩

< d. 考古学におけるテフラの多面性の利用 (2) > 座長：早田 勉 (火山灰考古学研究所)

TdO-06 16:40-16:55 妻沼低地・荒川低地の地表面に残る旧河道のテフラによる年代決定……小暮岳実\* (川越女子高・立正大・院)

TdO-07 16:55-17:05 利根川・荒川下流平野の微地形と火山噴火の影響……久保純子 (早稲田大)

TdO-08 17:05-17:20 浅間 B テフラ (1108 年) による埋没水田の再評価……杉山真二 (古環境研究所)  
17:20-17:30 (討論)

### ○口頭発表第 2 会場 (テーマセッション)

< e. テフラの年代測定の新展開 (3) > 座長：山田和芳 (早稲田大)

TeO-16 9:00-9:15 広域テフラによる相対古地磁気強度変動の絶対値較正 (招待講演) ……望月伸竜・藤井哲夢・渋谷秀敏 (熊本大)

TeO-17 9:15-9:30 琵琶湖の湖底堆積物の高精度磁気層序と広域テフラの対応……林田 明 (同志社大)

TeO-18 9:30-9:45 房総半島南端千倉層群における鮮新統一更新統境界層準の古地磁気-酸素同位体複合層序と広域テフラ対比-テフラ年代値の高精度化の試み……田村糸子・山崎晴雄 (首都大)・岡田 誠 (茨城大)・水野清秀 (産総研)

TeO-19 9:45-10:00 アミノ酸のラセミ化反応年代測定について……原田尚美 (海洋研究開発機構)

10:00-10:15 休憩

< e. テフラの年代測定の新展開 (4) > 座長：山田和芳 (早稲田大)

TeO-20 10:15-10:30 火山噴火史研究における AMS<sup>14</sup>C 年代測定利用の現状と展望……中村俊夫 (名古屋大)・奥野 充 (福岡大)

TeO-21 10:30-10:45 第四紀後期のテフラの高精度年代決定-放射性炭素年代測定の高精度化とルミネッセンス年代測定法の可能性……宮入陽介\*・横山祐典 (東京大)

TeO-22 10:45-11:00 ネパール・ララ湖堆積物の AMS<sup>14</sup>C 年代測定……中村淳路\*・横山祐典 (東京大)・前李英明 (広島大)・八木浩司 (山形大)・岡村 眞・松岡裕美・三宅 尚 (高知大)・長田俊樹 (地球研)・Danda Pani Adhikari・Vishnu Dangol (トリブバン大)・宮入陽介・松崎浩之 (東京大)

TeO-23 11:00-11:15 放射性炭素を用いた石筍の年代モデル構築とその適用可能性……関 有沙\*・横山祐典・宮入陽介 (東京大)・鈴木 淳 (産総研)・菅 浩伸 (岡山大)・松崎浩之 (東京大)

TeO-24 11:15-11:30 最終氷期のボンドサイクルは本当に 1500 年周期か (招待講演) ……オブラクタ スティーブン\*・宮原ひろ子・横山祐典 (東京大)

11:30-12:20 総会 (会場：アカデミックキューブ A205 教室)

12:20-12:30 休憩

12:30-13:00 表彰状授与式 (会場：アカデミックキューブ A205 教室)

13:00-14:00 昼食、休憩

14:00-15:00 ポスターセッションコアタイム (会場：スポーツキューブ 1 階軽運動室)

< b. テフラの地質学 (1) > 座長：青木かおり (立正大)

TbO-01 15:00-15:15 上総層群と大阪層群のテフラ層の層序と岩石学的特徴に基づく長期爆発的火山噴火史……長橋良隆 (福島大)・里口保文 (滋賀県立琵琶湖博物館)

TbO-02 15:15-15:30 フィリピン共和国、イロシンカルデラ内のボーリング・コアの層序……鳥井真之 (熊本学園大)・Hannah MIRABUENO・Edgardo LAGUERTA・Perla DELOS REYES・Mariton BORNAS (PHIVOLCS)・檀原 徹 (京都フィッシュン・トラック)・奥野 充・藤木利之 (福岡大・噴火情報研)・小林哲夫 (鹿児島大)

TbO-03 15:30-15:45 沼沢湖噴火の火砕流発生から降雨型ラハール、せき止め湖決壊洪水、平野域での再堆積に至るまで：同一起源テフラ物質に由来する地層と地形の変容、その同時性と非同時性……片岡香子・卜部厚志 (新潟大)

## 大会プログラム

- TbO-04 15:45-16:00 近江盆地周辺の段丘を覆う被覆層中におけるテフラ起源物質の特徴……石村大輔\* (千葉大)  
16:00-16:10 休憩  
< b. テフラの地質学 (2) > 座長: 石村大輔 (千葉大)  
TbO-05 16:10-16:25 紀伊半島沖海底コアによる鮮新-更新世基準テフラ層序の検討……里口保文 (琵琶湖博)・長橋良隆 (福島大)・IODP Expedition 333 次航海乗船研究者  
TbO-06 16:25-16:40 テフラがつなぐ日本海溝底と前弧海盆域のイベント堆積物: 十和田八戸軽石層準のタービダイトイベントの対比……池原 研 (産総研)・長橋良隆 (福島大)・金松敏也 (海洋研究開発機構)・宇佐見和子 (産総研)・MR-E01 及び SO219A 航海乗船者一同  
TbO-07 16:40-16:55 鬱陵島における完新世テフラ層序の再検討と鬱陵火山起源 U-4、U-3、U-2 テフラの広域分布の可能性……椎原美紀 (西日本技術開発)・鳥井真之 (熊本学園大)・奥野 充 (福岡大)・堂満華子 (滋賀県立大)・中村俊夫 (名古屋大)・金 奎漢 (梨花女子大)・森脇 広 (鹿児島大)・尾田太良 (東北大)  
TbO-08 16:55-17:10 グリーンランド氷床コアと日本周辺海域から採取された海底堆積物コアの D/O サイクル対比に基づく広域テフラの高精度編年……青木かおり (立正大)・池原 研 (産総研)・三浦英樹 (極地研)・鈴木毅彦 (首都大)  
17:10-17:30 …… (討論)

### ポスター発表 (会場: スポーツキューブ 1 階軽運動室)

#### コアタイム

8月20日 (月) 13:00 ~ 14:00

8月21日 (火) 14:00 ~ 15:00

#### <一般ポスター>

- GP-01 JR 難波駅および住之江公園付近にて実施した UMH22-1、UMH23-1 コアの層序と上町断層……北田奈緒子 (地域地盤環境研)・竹村恵二 (京都大)・井上直人 (地域地盤環境研)・三田村宗樹 (大阪市立大)・越後智雄・伊藤浩子 (地域地盤環境研)  
GP-02 宮城県西部、名取川流域において中期更新世に形成された本砂金段丘群……河合貴之\*・鈴木毅彦 (首都大)  
GP-03 後期更新世における上田盆地の段丘地形の発達過程と編年 - On-Pm1 の同定と塚原岩屑流の対比より……滝澤みちる (東京大・院)・山崎晴雄 (首都大)  
GP-04 秋田男鹿、一の目瀉堆積物から推定された過去 26,000 年間の気候変動……山田和芳 (早稲田大)・篠塚良嗣 (北海道大)・米延仁志 (鳴門教育大)・五反田克也 (千葉商科大)・原口 強 (大阪市立大)・安田喜憲 (東北大)  
GP-05 武蔵野台地およびその周辺における最終氷期の植生変遷……栗原美貴 (日本大・院)・植村杏太 (首都大・院)・鈴木 茂 (日本大)・遠藤邦彦 (日本大)  
GP-06 榛名火山南東部の崩壊地形と岩屑なだれ堆積物……竹田朋矢\* (立正大)  
GP-07 東京低地と中川低地における最終氷期最盛期以降の古地理……田辺 晋\* (産総研)  
GP-08 ボーリングデータベースに基づく東京低地の沖積層基底面のサーフェスマデル: 手法と 3 次元表示……木村克己 (産総研)・花島裕樹 (筑波大)・西山昭一 (応用地質)・康 義英 (産総研)  
GP-09 大阪平野西部の縁辺域における貝形虫分析から見た完新世水域環境変遷……澤西大智\*・三田村宗樹 (大阪市立大)・北田奈緒子 (地域地盤環境研)・入月俊明 (島根大)  
GP-10 ボーリングデータベースを用いた上町断層変形ゾーンマッピングの試み……井上直人・北田奈緒子 (地域地盤環境研)・竹村恵二 (京都大)  
GP-11 桑名断層上盤側の上部完新統に認められるイベント砂層と養老断層系の活動との関係……丹羽雄一\* (東京大・学振 PD)・須貝俊彦・松崎浩之 (東京大)  
GP-12 鍵種に注目したサンゴ礁生態系の近未来予測……本郷宙軌\* (琉球大・学振 PD)  
GP-13 フィリピンソン島中央平原パイタン湖における湖底堆積物の粒度変動と植生変遷に関する一考察……田代 崇\* (日本大・院)・渡邊真紀子 (首都大)・Mario B. Collado (フィリピン農業省)・森島 済 (日本大)  
GP-14 バルハシ湖 (カザフスタン) 堆積物コアの磁気特性と堆積環境……松岡東香 (筑波学院大)  
GP-15 釧路市春採湖コアに認められる珪藻質ラミナの微細鏡下観察に基づく 17 世紀巨大津波の発生日代……石川 智\* (九州大・学振 DC)・鹿島 薫 (九州大)・七山 太 (産総研)  
GP-16 北海道南部樽前火山 1739 年噴火 (Ta-a) 以降のテフラと噴火史の検討……横田彰宏 (日本大・学)・遠藤邦彦 (日本大)・鈴木正章 (道都大)  
GP-17 鳥取県伯耆町井後草里遺跡 (Tr7) の微粒炭分析……小椋純一 (京都精華大)  
GP-18 完新世における古青谷湾の海域環境の変遷……一木絵理\* (名古屋大)・村田泰輔 (鳥取県埋蔵文化財センター)・辻 誠一郎 (東京大)  
GP-19 完新世における内湾環境の変遷 - 日本海に面した古青谷湾・青谷平野 - ……村田泰輔・君嶋俊

- 行（鳥取県埋蔵文化財センター）・一木絵理（名古屋大）・辻 誠一郎（東京大）
- GP-20 弥生-古墳時代の青谷上寺地集落と周辺域の陸域生態系の変遷……………安 昭炫\*（パレオ・ラボ）・辻 誠一郎（東京大）
- GP-21 縄文時代終りから弥生時代にかけての倒木現象（2）……………藤根 久・森 将志・AMS年代測定グループ（パレオ・ラボ）・遠藤邦彦（日本大）・本庄市教育委員会
- GP-22 神奈川県内の遺跡から検出された巨大地震の痕跡……………上本進二（神奈川災害考古学研）
- GP-23 カンボジア中部サンボープレイクック遺跡の都城内断面および環濠試料の<sup>14</sup>C年代……………久保純子（早稲田大）・南雲直子（東京大）・チュン メンホン（早稲田大・院）・下田一太（早稲田大）・ヒム ソフォアン（コンポントム州文化芸術局）
- GP-24 アンコール・トム環濠堆積物の花粉分析からみたアンコール遺跡周辺の植生変遷……………藤木利之（福岡大・国際火山噴火史情報研）・安田喜憲（東北大）
- GP-25 浅海底や海浜の砂が量質ともに1955年以前の状況に戻りつつある鳥取砂丘海岸……………小玉芳敬（鳥取大）・岡部広夢・河本悠佑・渡壁卓磨（鳥取大・院）
- GP-26 東南アジア熱帯域の洞窟における現在の石筍生成と洞外気象の関係……………長谷川 航\*・渡邊裕美子・田上高広（京都大）
- GP-27 地層変形シミュレーションを用いた2008年岩手・宮城内陸地震（Mj 7.2）で発生した断層撓曲の発生条件の推定……………安藤広一\*・山崎晴雄（首都大）
- GP-28 2時期の航空レーザー測量結果に基づく、2011年福島県浜通りの地震に伴う地表地震断層の変位量分布……………品川俊介・阿南修司・佐々木靖人（土木研）・向山 栄・本間信一・小林容子（国際航業）
- GP-29 2011年東北地方太平洋沖地震のイベント堆積物と放射能測定結果の堆積学的解釈……………池原 研・宇佐見和子（産総研）・入野智久（北海道大）・ジェンキンス ロバート（横浜国大）・芦 寿一郎（東京大）・渡辺 豊・氏家 崇（北海道大）
- GP-30 2011年東北地方太平洋沖地震による津波で仙台平野に形成されたベッドフォーム……………藤原 治・谷川晃一郎（産総研）
- GP-31 東京湾岸地域における津波遡上シミュレーション事例と低地への影響……………高橋 緑・遠藤邦彦（日本大）・堀 伸三郎（防災技術㈱）
- GP-32 琉球列島における第四紀学的ジオサイト……………尾方隆幸（琉球大）
- GP-33 本部半島周辺の海成段丘における第四紀学的諸問題……………比嘉啓一郎（本部町立博）・尾方隆幸（琉球大）
- GP-34 海成段丘や崩壊地をどう旅行者に楽しませるか？-室戸ジオパークにおけるジオツーリズムの試み-……………柚洞一央（室戸ジオパーク推進協議会）
- GP-35 「ジオパーク秩父」の見どころと取り組み……………本間岳史・井上素子（埼玉県立自然博）
- GP-36 下仁田ジオパークと第四紀地質……………真野勝友（下仁田自然学校校長）・関谷友彦（下仁田町ジオパーク推進室）
- <テーマセッションポスター>
- TaP-01 ブルカノ式噴火における、噴火直後のテフラの分布特性-桜島火山昭和火口の活動による噴火を例に-……………大石雅之\*・西来邦章・下司信夫・古川竜太（産総研）
- TbP-01 宮崎県都城市及び愛媛県宇和島市の後期更新世炭質層に挟まる未知の火山灰層とその対比……………水野清秀・星住英夫（産総研）・古澤 明（古澤地質）・三宅 尚（高知大）・百原 新（千葉大）・杉浦真琴（名古屋大）・赤崎広志（宮崎県博）・松田清孝（宮崎県埋文）
- TbP-02 火山露頭データベースの構築とそのテフラ研究への応用……………鳥井真之（熊本学園大）・鶴田直之・高橋伸弥・奥野 充（福岡大）・福岡大学国際火山噴火史研究所メンバー
- TbP-03 Aso-4 火砕流堆積物の火山ガラスに認められる均質性・不均質性……………椎原美紀（西日本技術開発）
- TcP-01 深部～浅部構造探査に基づく関東平野南部の伏在活断層の構造……………石山達也・佐藤比呂志・加藤直子・中山俊雄（東京大・地震研）・阿部 進（地球科学総合研）
- TcP-02 榛名火山とその周辺の第四紀火山:5万分の1地質図幅「榛名山」地域の地質……………下司信夫（産総研）
- TeP-01 ヴェスヴィオ火山起源のスコリアおよびラハール堆積物のルミネッセンス年代測定……………塚本すみ子（Leibniz Institute for Applied Geophysics）・片岡香子（新潟大）・小口 高（東京大）・小松吾郎（Univ. d'Annunzio）
- TeP-02 モンゴル・フスグル湖湖底堆積物のPost-IR IRSL年代測定……………伊藤一充（名古屋大）・Geoff Duller（Aberystwyth Univ.）・長谷部徳子・荒井章司（金沢大）・中村俊夫（名古屋大）・柏谷健二（金沢大）
- TeP-03 レス堆積物のpIRIR年代測定による十和田火山周辺におけるテフラ降下年代の推定……………近藤玲介\*（明治大）・塚本すみ子（Leibniz Institute for Applied Geophysics）・工藤 崇（産総研）・遠藤邦彦（日本大）・小林 淳（ダイヤコンサルタント）・坂本竜彦（海洋研究開発機構）
- TeP-04 後期更新世指標テフラの熱ルミネッセンス年代測定……………下岡順直・竹村恵二（京都大）・長友恒人（奈良教育大）

- TeP-05 フィリピン共和国、ルソン島南東部の  $^{14}\text{C}$ ・テフロクロノロジー……奥野 充 (福岡大)・Hannah MIRABUENO・Edgardo LAGUERTA・Perla DELOS REYES・Mariton BORNAS (PHIVOLCS)・中村俊夫 (名古屋大)・鳥井真之 (熊本学園大)・檀原 徹 (京都フィッシャーン・トラック)・小林哲夫 (鹿児島大)
- TeP-06 鹿児島県蘭牟田池で採取されたコア試料の層序と磁気特性……横田敬作・林田 明 (同志社大)・山田和芳 (早稲田大)・原口 強 (大阪市立大)・井村隆介 (鹿児島大)・上田圭一 (電力中央研)・米延仁志 (鳴門教育大)

●第3日 2012年8月22日 (水)

公開シンポジウム：アカデミックキューブ A101 教室

普及活動：アカデミックキューブ・エントランスホールおよび A101 教室

共催：埼玉県立川の博物館 後援：立正大学開校 140 周年記念事業

9:30 ~ 14:30 公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」(会場：アカデミックキューブ A101 教室)

S-01 趣旨説明……福岡孝昭 (立正大)

S-02 南極や北極の氷河・氷床掘削……本山秀明 (極地研)

S-03 氷床に閉じ込められた空気が語る過去の温室効果ガスと気候の変動……川村賢二 (極地研)

S-04 過去の水の安定同位体比は何を示すか？……植村 立 (琉球大)

S-05 両極の氷床コアから復元された過去数十万年のエアロゾル変動……東 久美子 (極地研)

S-06 グリーンランド気温復元データから見た過去 4000 年の北半球気温変動……小端拓郎 (極地研)

休憩・昼食 40 分間

S-07 ベリリウム 10 からみた過去の宇宙線強度変動と宇宙線層序学……堀内一穂 (弘前大)

S-08 氷河・氷床に含まれる花粉を利用した研究について……中澤文男 (極地研)

S-09 南極氷中の火山灰・宇宙物質……福岡孝昭 (立正大)

10:00 ~ 17:00 普及活動

10:00 ~ 17:00 (その1) 園山俊二まんが原画展 (会場：アカデミックキューブ・エントランスホール)  
日本第四紀学会の功労賞を受賞した「はじめ人間ギャートルズ」を描いた園山俊二さんのまんがの原画を展示します。

11:00 ~ 15:00 (その2) 質問コーナー「博士に聞いてみよう」(会場：アカデミックキューブ・エントランスホール)

さまざまな自然を研究している「はかせ」が、児童・生徒・一般市民から日頃疑問に思っている質問を受け付けます。

山と石はかせ：及川輝樹 (産総研)

地震と活断層はかせ：水野清秀 (産総研)

彩の国の自然はかせ：中澤 努 (産総研)

花と森はかせ：米林 伸 (立正大)

お天気お兄さん：紺野祥平・清水昭吾 (首都大・院)

15:00 ~ 16:30 (その3) 南極ってどんなところ (会場：アカデミックキューブ A101 教室)

南極に行った人の話を聞いたり、南極の昭和基地で働く人と話したり、南極の氷をさわったりして、児童・生徒・一般市民に今も氷河時代の南極を体験してもらいます。

1. 南極ってどんなところ……お話：大岩根 尚 (極地研)

2. 南極の氷にさわってみよう

3. 昭和基地との中継……司会：植木岳雪 (産総研)

今日の昭和基地の様子

今回の越冬隊の研究について

児童・生徒からの質問など

※これらの普及活動は、文部科学省科学研究費補助金 (研究成果公開促進費)「彩の国さいたまで自然の歴史を発見しよう」の補助を受けています。

◆編集委員会ブースにお立ち寄りください

立正大学大会では昨年に引き続き編集委員会ブースを開設します。ブースでは、第四紀研究への投稿から受理に至るまでの編集の流れと、読者に分かりやすい図や表の作成に関する注意点などについてポスターを用いて、編集書記や編集幹事が説明いたします。投稿予定の原稿についての相談、図や表の作成に際しての質問などもお受けします。また、論文作成全般について、出来るだけ助言もいたしたいと思いません。若い方をはじめ、特に論文を書きなれていない方々、現在作成中の原稿を御持ちいただいたの具体的な相談もお受けいたします。また、第四紀研究に関する様々なご意見もお寄せください。ぜひお気軽にお立ち寄りください。  
(日本第四紀学会編集委員会)

## ◆ 2012 年日本第四紀学会学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞受賞者決定

日本第四紀学会では、学会賞、学術賞、功労賞、論文賞、奨励賞を設け、顕彰を行っております。これらのうち、2012 年の学会賞、学術賞、論文賞、奨励賞の選考が行われ、受賞者が決定されました。

学会賞は第四紀学の発展に貢献した顕著な業績を有し、また日本第四紀学会の活動に著しい貢献があった正会員に授与される、学会における最高の賞です。また学術賞は第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与されます。会員の皆様から推薦募集を行い、1 月 31 日をもって締め切り、学会賞の推薦 2 件、学術賞の推薦 3 件がありました。学会賞受賞者選考委員会（鈴木毅彦委員長、菊地隆男、佐藤宏之、松浦秀治、百原 新各委員）によって最終候補者が推薦され、5 月 25 日に行われた評議員会において、下記のとおり受賞者が決定されました。

日本第四紀学会学会賞：中村俊夫会員

受賞件名：「放射性炭素年代測定の高度化と普及への顕著な貢献」

日本第四紀学会学会賞：河村善也会員

受賞件名：「東アジアから日本列島における古脊椎動物の時空分布に関する研究」

日本第四紀学会学術賞：兵頭政幸会員

受賞件名：「古地磁気層序の高度化と古環境・人類学への貢献」

日本第四紀学会学術賞：成瀬敏郎会員

受賞件名：「風成堆積物の体系的研究と第四紀古気候への貢献」

論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を公表した会員を含む著者に授与されるもので、とくに奨励賞は若手研究者（会員）の育成と研究奨励に寄与することを目的としています。論文賞受賞者選考委員会（藤原 治委員長、齋藤めぐみ、佐瀬 隆、豊田 新、米延仁志各委員）によって両賞の最終候補者及び論文が推薦され、5 月 25 日に行われた評議員会において、下記のとおり、受賞者が決定されました。

日本第四紀学会論文賞：小川明日香氏・栗田寛子氏・鴈澤好博会員

対象論文：論説 小川明日香・栗田寛子・鴈澤好博（2011）赤色熱ルミネッセンス（RTL）および恒温加熱赤色熱ルミネッセンス（IRTL）法による十和田八戸火砕流の単粒子石英年代測定、50 巻 4 号、169-180 ページ

日本第四紀学会奨励賞：石村大輔会員

対象論文：石村大輔（2010）関ヶ原周辺における段丘編年と活断層の活動性、49 巻 5 号、255-270 ページ

各受賞者の表彰式は、8 月 21 日の日本第四紀学会大会総会後に行われます。受賞理由等の詳細は、総会において報告されると共に次号の第四紀通信にてお伝えします。また学会賞・学術賞受賞者による記念講演会を計画中です。

### ◆ 3rd Asia Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance dating (2012 年 11 月 18 日 (日) ~ 21 日 (水) 主催：岡山理科大学地球惑星環境研究センター、協賛：日本第四紀学会ほか) のお知らせ

前回会報でご案内しました標記 ESR・ルミネッセンス年代測定関連国際会議に関しまして、2nd サーキュラーが公開されました。早期登録・予稿原稿締切（2012 年 8 月 12 日）、Proceedings 原稿締切（2012 年 12 月 20 日）等の情報も掲載されておりますので、関心をお持ちの学会員の皆様は、下記をご参照ください。

Conference Web Site <http://www.rins.ous.ac.jp/eps/theme/symposium.html>

参加登録 <https://amarys-jtb.jp/3rdapled/>

なお、上記国際会議の開催にあわせて、Registration & Ice Breaker が行われる 2012 年 11 月 18 日 (日) の 15:00-17:00 に、日本第四紀学会共催の横山祐典博士（東京大学大気海洋研究所）による特別講演を開催いたします（聴講無料；詳細は後日公表予定）。奮ってご参加いただきますよう、ご案内させていただきます。

問合せ・連絡先：岡山理科大学理学部 豊田 新 E-mail：[toyoda\(at\)dap.ous.ac.jp](mailto:toyoda(at)dap.ous.ac.jp)

## ◆第27回特別企画展「でっかい動物化石」

内 容：ゾウの仲間を中心にクジラやサイなど大型動物化石の大きさや進化について、体験的に「見て くらべて 学べる」特別企画展です。

開催期間：2012年7月13日（金）～9月2日（日）

開館時間：9:00～16:30（入場は16:00まで）

休 館 日：毎週月曜日、7月17日（7月16日、8月13日は開館）

会 場：豊橋市自然史博物館 特別企画展示室（豊橋市大岩町字大穴 1-238）

観 覧 料：大人 300円（240円）／小・中学生 100円（80円）

※別途、総合動植物公園入園料／大人 600円（480円）、小・中学生 100円（80円）が必要

※（ ）内は30名以上の団体料金

※未就学児は入園・観覧ともに無料

## ◆ゾウ・シンポジウムⅡ「ゾウの歴史をさぐる」

日 時：2012年8月5日（日） 13:00～15:30

会 場：豊橋市自然史博物館（豊橋市大岩町字大穴 1-238）

定 員：100名（小学4年生以上・先着順）

参 加 費：大人 240円／小中学生 80円

申込方法：電話（0532）41-4747、FAX（0532）41-8020、

またはメール [sizensi\(at\)toyohaku.gr.jp](mailto:sizensi@toyohaku.gr.jp) で申し込みください。

プログラム：

- 今、何故ゾウ・シンポジウムか！ 松岡敬二（豊橋市自然史博物館長）
- ゾウは水の中で進化した！—知られざる長鼻類の揺籃— 甲能直樹氏（国立科学博物館研究主幹）
- 日本のゾウ化石、その起源と移り変わり 高橋啓一氏（滋賀県立琵琶湖博物館上席総括学芸員）
- 豊橋周辺のゾウ化石 安井謙介（豊橋市自然史博物館学芸員）
- 第27回特別企画展「でっかい動物化石」見所紹介 吉川博章（豊橋市自然史博物館学芸員）

特別企画展及びシンポジウム共通事項

交 通：JR 二川駅南口より総合動植物公園東門まで徒歩6分（公共交通機関をご利用ください。）

問い合わせ先：豊橋市自然史博物館

〒441-3147 豊橋市大岩町字大穴 1-238（豊橋総合動植物公園内）

電話（0532）41-4747 FAX（0532）41-8020 メール [sizensi\(at\)toyohaku.gr.jp](mailto:sizensi@toyohaku.gr.jp)

詳細はホームページをご覧ください（<http://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/>）

## ◆第5回ジオパーク国際ユネスコ会議に参加して

第5回ジオパーク国際ユネスコ会議（主催：島原半島ジオパーク推進連絡協議会、世界ジオパークネットワーク、共催：アジア太平洋ジオパークネットワーク、日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会）が、島原市の災害復興アリーナを会場として5月11日～15日に開催された。参加者は、ジオパーク活動に関係する研究者、各地のジオパーク協議会、政府機関、ジオパークへの登録を目指す自治体などの関係者であった。登録参加者は31の国と地域から593名（外国からの参加者306名）に及んだ。さらに、市民フォーラム等への一般参加者も多数あり、全体で約5,300名が参加した。

この会議は、「大地の遺産とそれらの持続可能な発展」という主テーマのもとに、専門家向けの発表と一般向けのフォーラム、そして全体の行事、各種ワークショップ・関連会議などから構成されていた。また、各地のジオパークや関係する行政機関のブースが設けられ、資料の提供などで広報がなされていた。野外広場では地元の産物などの

物産展、イベントが催され、大会を盛り上げていた。専門家向けの会議では、ジオパーク活動で主要な課題となっている「ジオツーリズムと教育活動」、「ジオの保全と持続可能な発展」、「ジオの多様性の研究活動及びその成果」、「ジオに関する自然災害及びそれからの復興」、「ジオパークの管理運営と地域の振興」、「ネットワーク加盟を目指すジオパーク」、「ジオパークの国際連携」の各セッションが設けられて、活発な議論がなされた。ポスターはジオにかかわる専門的なものから、管理運営、各地のジオパークの紹介、ジオパークにかかわる地元の学校の活動紹介など多種・多様であった。口頭・ポスターを合わせた発表数は180に及んだ。さまざまな分野・階層・地域の人々が参加したこの会議から、現在の世界のジオパーク活動の全体像を知ることができた。会議開催中に参加者、各ジオサイトをめぐる巡検が行われた。3コースが設定され、335名の参加者であった。整備されたジオサイトでの専門的な知識を備えたガイドの説明は、市民のジオに対する深い関心を啓発するのに値す

るものであった。小学校の訪問などにより子どもたちとの交流も企画されていた。最後に、「東日本大震災とジオパーク」「自然災害や気候変動問題におけるジオパークの役割」など8項目に及ぶ島原宣言が採択された。

学術的な知識を基盤としているジオパークの活動は第四紀学会の活動と深く関連している。第四紀研究の普及という点においてジオパークのもつ意味は大きいし、一方でジオパークに的確な学術的意味を与えるという点において第四紀研究・第四紀学会の果たす役割は大きい。今回の会議では、第四紀学的な諸問題とジオパーク活動との関係にかかわる発表は必ずしも多いとはいえなかった。第四紀研究・第四紀学会とジオパークとのかかわりをもっと検討する必要があるのではと感じた。

(日本第四紀学会推薦組織委員 森脇 広)



第5回ジオパーク国際ユネスコ会議の会場

### ◆東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 助教公募

公募人員:助教1名

公募分野:表層環境動態分野、特に沿岸環境の動態を多圏相互作用の視点から研究する分野  
着任時期:決定後なるべく早い時期

応募・推薦の締め切り:平成24年8月17日(金)

詳細 <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/> をご覧下さい。

### ◆2011年度第3回評議員会議事録

日時:2012年5月25日(金) 12:30~13:30

場所:幕張メッセ国際会議場 会議室101B

出席者:遠藤邦彦(会長)、吾妻 崇、池原 研、植木岳雪、大場忠道、岡崎浩子、奥村晃史、小野 昭、北村晃寿、久保純子、斎藤文紀、須貝俊彦、鈴木毅彦、兵頭政幸、藤原 治、水野清秀、三田村宗樹、百原 新、横山祐典(以上、評議員)。

久保純子幹事長の司会のもと、遠藤邦彦会長の挨拶に続き、議長に吾妻 崇評議員が選出された。定足数確認(出席18名、委任状12通)後、下記の審議と報告が行われた。

#### Ⅰ.審議事項

1) 2012年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会(鈴木毅彦委員長、菊地隆男、佐藤宏之、松浦秀治、百原 新各委員)の鈴木委員長より、締切日までに学会賞の推薦2件、学術賞の推薦3件があったことなど、選考経過について報告がなされた。また、学会賞候補者2名、学術賞候補者2名を推薦することとその理由について説明がなされた。審議の結果、学会賞として中村俊夫会員と河村善也会員、学術賞として兵頭政幸会員と成瀬敏郎会員の受賞が決定した(詳細は第四紀通信本号の関連記事参照)。

2) 2012年日本第四紀学会論文賞・奨励賞の受賞者・受賞論文の決定

論文賞受賞者選考委員会(藤原 治委員長、齋藤めぐみ、佐瀬 隆、豊田 新、米延仁志各委員)

の藤原委員長より、締切日までに論文賞・奨励賞とも推薦がなかったが、選考委員会独自に候補を選出したことなど、選考経過報告がなされた。また、論文賞候補1論文、奨励賞候補者1名について、その推薦理由とともに説明がなされた。審議の結果、論文賞として小川明日香氏ほか(2011)第四紀研究50巻4号の論文、奨励賞として石村大輔会員の受賞が決定した(詳細は第四紀通信本号の関連記事参照)。

3) 2012年日本第四紀学会名誉会員候補者の決定

名誉会員候補者選考委員会(田村俊和委員長、小池裕子、斎藤文紀、辻 誠一郎、山崎晴雄各委員)の斎藤委員より、推薦基準などの選考経過報告と推薦候補者4名およびその推薦理由の説明がなされた。審議の結果、下記の4会員を名誉会員最終候補者に決定し、2012年大会での総会で会員に承認を求めることにした。名誉会員最終候補者:大場忠道会員、菊地隆男会員、成瀬 洋会員、真野勝友会員。なお、名誉会員が評議員会でも意見を述べるように会則を見直す必要があること、名誉会員の選考規定では、条件としてあげられている年齢70歳以上、会員歴20年以上の基準日が指定されていないことが選考委員会から指摘され、幹事会で検討することとした。

#### Ⅱ.報告事項その他

1) 2012年大会について

2012年8月20日~22日に立正大学熊谷キャンパスで行われる大会について、久保幹事長から

報告された。公開シンポジウムとして「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」を国立極地研究所の全面的な協力のもとに実施し、南極に関連したことを中心に普及活動も行うが、このシンポジウムの内容は第四紀研究に特集号を組まないこと、講演発表ではテフラ・年代測定に関するテーマセッション（6 サブテーマに細分、さらにいくつかの学会と共催）と一般セッションとを2会場に分け

て進めること、テーマセッションの中から第四紀研究の特集号を組むことなどが説明された。

2) その他

「第四紀研究」の編集について、評議員から査読期間の短縮などに関する提案があったが、議論の時間がなかったため、評議員会 ML にて資料を添付し、意見を求めることとした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸 (mhyodo(at)kobe-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 FAX: 078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176